

Harmony

vol.205

2026
冬号

暮らしの「もしも」に寄り添い
「もどる」までの日々を共に
高齢者を支える“地域に安心の救急窓口”を



暮らしの「もしも」に寄り添い 「もどる」までの日々を共に

高齢者を支える“地域に安心の救急窓口”を



住み慣れた地域で、患者さんとご家族を 安心の暮らしにつなぐ

在宅や施設で療養されている方が、急な発熱や体調悪化で「すぐに受診・入院が必要になった」時、当院の地域包括医療病棟は、そのような軽症・中等症の急性期入院に特化し、迅速な受け入れをおこないます。高度急性期病院などが担いきれない高齢者救急や在宅復帰など、地域に求められる役割を果たし、地域の皆様の暮らしの安心を支えます。医師・看護師・リハビリスタッフ・歯科衛生士など、多職種のチームが連携し、一歩先の暮らしを見据えた支援を提供します。

地域の「もしも」を支える5つの安心

地域包括医療病棟は地域の皆様にとって 以下のような大きな価値を提供します

Point 1

「安心」の一貫した 医療体制

急性期の治療からリハビリ、退院支援までを一つの病棟で完結させます。転院や病棟移動による環境変化のストレスを抑え、入院から在宅復帰まで途切れのないスムーズな医療を提供します。

Point 2

「スムーズ」な 在宅復帰

医師やリハビリ専門職が連携し、早期から計画的リハビリを実施します。在宅での生活を想定した訓練をおこなうことで、自信を持って自宅へ戻れるよう支援します。

Point 3

「多様」な ニーズへの対応

病気の治療だけでなく、「生活上の課題」にも同時に向き合います。認知症ケアや身体機能の低下防止など、専門チームが連携し、患者さんの状態に合わせたトータルケアを提供します。

Point 4

「かかりつけ医」との 緊密な連携

入院前から退院後まで、患者さんの情報をかかりつけ医と共有し、緊密に連携します。これにより、退院後も途切れることのない、質の高い医療を継続的に受けることができます。

Point 5

「家族」の 負担軽減と安心感

退院後の生活に不安を感じるご家族のために、病棟の医療ソーシャルワーカーが相談に応じ、介護保険制度の利用や、在宅での生活を支えるサービスについて丁寧に説明・提案します。

「住み慣れた地域での暮らし」を途切れさせない
退院後の生活を見据え、
必要な治療とサポートを提供する病棟です。

肺炎や軽度な骨折、急な発熱などにより、救急搬送された高齢の患者さんが多く入院する病棟です。「まずは安静にして治療を」と考えがちですが、高齢の方にとって数日の「寝たきり」は、筋力を奪い、食べる力を弱め、認知機能にも影響を与えてしまいます。

病気の治療と並行して、患者さんの「生活する力」が低下しないように支援することを使命としています。入院したその日からベッドサイドでのリハビリを開始し、管理栄養士と歯科衛生士が連携して「口から食べる楽しみ」と「十分な栄養」を維持できるよう、口腔ケアや食事形態の調整を徹底しておこないます。患者さん1人ひとりの目標に向け、多職種が1つのチームとなって在宅復帰をサポートします。

私たちがサポートします!

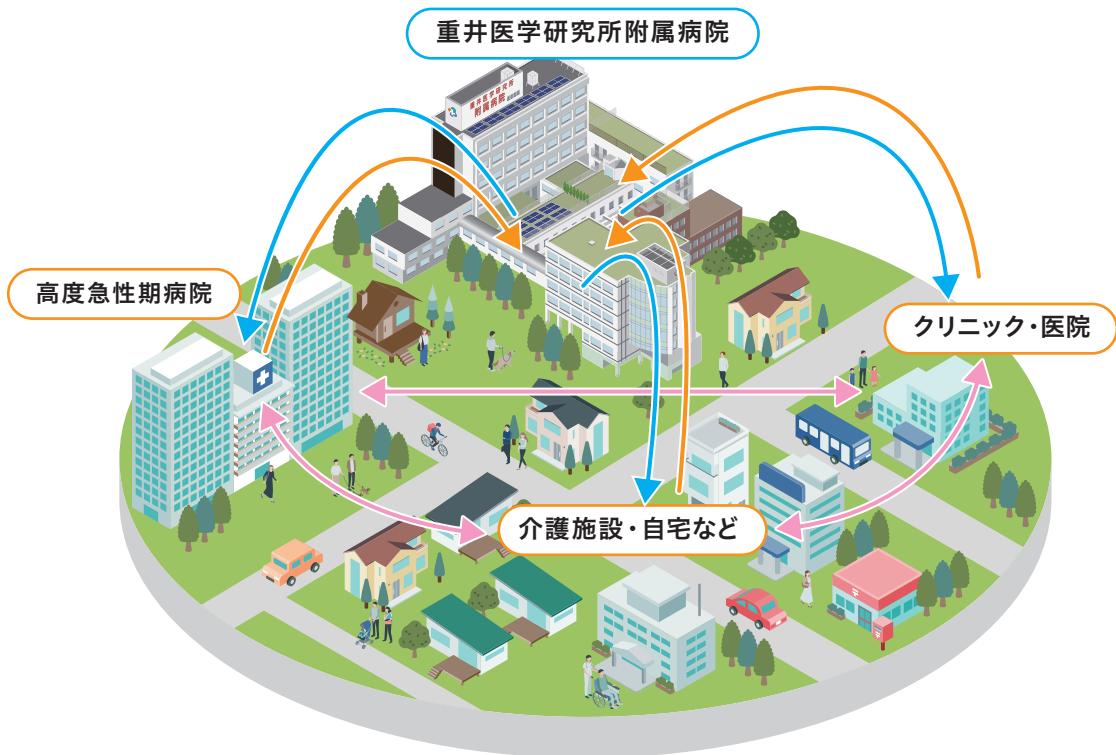


「もしも」の時に、頼れるネットワークを

地域医療全体の質を高めることも地域包括医療病棟の役割です。在宅・施設療養者と常日頃より情報共有し、緊急時にも対応しています。地域のクリニック・訪問看護・施設との関係を強化し、紹介から受け入れまでのレスポンスを迅速におこないます。退院後の在宅・施設復帰を最優先し、切れ目のない医療・介護連携を実践します。

迅速かつ、きめ細やかな入退院支援センタースタッフが窓口となり、紹介・入院相談へのレスポンスを迅速化します。地域の医療従事者の方々に「紹介してよかった」「安心して送り出せた」と言われる関係を目指します。

退院して在宅へ戻られた後も、必要に応じて訪問診療など、継続的なフォローアップをおこないます。患者さんの安心を途切れさせない支援を実践します。



地域包括医療の窓口として、「もしも」の緊急時も、「もどる」ための日々も、私たちは地域の皆様の隣で支援を続けてまいります。

緊急時の迅速な受け入れから、退院後の安心した生活の再構築まですべての支援がスムーズに機能するためには、切れ目のない「つなぎ」が必要です。

私たち入退院支援センターはまさにその「つなぎ役」。患者さんが高度急性期病院から当院、そして自宅や施設へ安心して戻ることができるよう、院内外連携を密におこない、丁寧に支援します。患者さんやご家族のご不安が少しでも減り、住み慣れた地域でその人らしい日々を送ること・・・それを支援することが私たちの使命であり、一番の願いです。

私たち入退院支援センターにご相談ください!



■入退院支援センター番号(直通)

TEL 086-282-5360 FAX 086-282-4447

食べる力・生きる力を支える、
チーム医療

重井医学研究所附属病院

リハビリ・嚥下支援のポイント

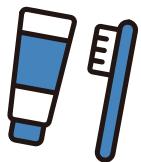


高齢者にとって食べることは、栄養摂取だけでなく、生きる意欲や回復力そのものに直結します。当院では、言語聴覚士・歯科衛生士・医師・看護師・管理栄養士等が連携し、在宅・施設生活までを見据えた嚥下・口腔ケアを提供しています。



見えにくい“衰え”を、早期に見つけ支える

噛む力や飲み込む力は、外からは分かりにくく、本人やご家族も気づかないうちに低下していることがあります。特に高齢者は、加齢や疾患、禁飲食期間、義歯不適合などが重なると、誤嚥性肺炎や低栄養のリスクが高まります。当院では、入院された全ての患者さんに入院早期から口腔内スクリーニングをおこない、嚥下評価をおこない、必要な方へ歯科衛生士の介入を実施しています。問題が起きてからではなく、問題が起きる前に支える体制を整えています。



多職種が連携する、当院ならではの嚥下・口腔ケア



医師（リハビリ医）

全身状態を踏まえた
診察・必要に応じた
嚥下評価をおこない
必要な方へVF検査等施行



言語聴覚士（ST）

嚥下機能評価、直接訓練・
間接訓練、退院後を見据えた
食事形態・介助方法の指導



歯科衛生士（DH）

口腔衛生管理、義歯の
評価、口腔機能訓練、
ご家族・施設職員への
ケア指導



管理栄養士

栄養評価・
食事内容の調整



訪問歯科

義歯調整・
歯科治療

当院の嚥下・口腔ケアは、医科歯科連携とリハビリの融合が特長です。嚥下機能と口腔環境の両面から支えることで、安全に食べるだけでなく食べる楽しみを取り戻す支援につなげています。

私たちが大切にしているのは、**食べる力 = 噛む力×飲み込む力×本人の意欲** という考え方です。どれか1つでもないと力が発揮されません。口腔ケアや義歯調整により表情が明るくなり、食事量や活動量が回復したケースも少なくありません。「口の中がきれいになって気持ちがいい」「安心して食事ができるようになった」などの小さな変化の積み重ねが、早期回復・早期退院、そして在宅・施設生活の安定につながっています。



退院後まで見据えた支援

退院前には言語聴覚士と歯科衛生士が連携し、
・食事介助の方法・自主訓練のポイント・口腔ケアの注意点
をご本人・ご家族・施設スタッフへ丁寧に共有。

退院後も切れ目のない支援が
続くよう、地域の在宅医療・訪問歯科・
施設との連携を大切にしています。

「待ってました！」—— 6年ぶり！全施設合同忘年会で深めた絆



地域医療を支える多職種での連携を再確認

この度、私たち社会医療法人創和会は、新型コロナウイルスの影響で中断しておりました全施設合同忘年会を、実に6年ぶりに開催いたしました。日頃から患者さん・利用者さんのために協力し合う病院、クリニックなど12施設が一堂に会し、医師、看護師、介護士、リハビリスタッフ、事務職など、約420名の職員が参加しました。長期間にわたり、感染対策や厳しい環境下で地域の医療・介護を支えてきた職員たちの労をねぎらうとともに、日頃の職種や施設の垣根を越えた「連携」をさらに強固なものにする貴重な機会となりました。

活気あふれる交流が「チームの力」を育む

会場となった倉敷アイビースクエアでは、普段は業務で顔を合わせる機会が少ない他施設の職員や、新しく入職した若手スタッフが交流を深める様子が見られました。これは、患者さん1人ひとりの多様なニーズに

対応するための「チーム医療」において、非常に重要です。顔の見える関係を構築することで、日常の業務においてもスムーズな情報共有や、迅速な連携が可能となり、結果として質の高い医療・介護サービスの提供につながります。会の途中では、各部署・施設が創意工夫を凝らした余興が披露され、会場は活気に満ち溢れました。仕事への真摯な姿勢だけでなく、職員1人ひとりが持つ豊かな人間性が垣間見え、和やかな雰囲気の中で互いの親睦を深めました。

当法人は、今回の合同忘年会で再確認したチームワークを基盤として、今後もより一層、地域の皆様に「安心」を提供できるよう、質の高い医療・介護サービスの充実に努めてまいります。

引き続き、皆様のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

公開講座2025 すこやかに生きるために その41

第5回「肝・腎かなめの公開講座」

12月11日(木)、本年第5回目の公開講座を開催しました。今回は岡山大学 肝・腎疾患連携推進講座との共催で開催され岡山大学の高木章乃夫特任教授、岡山大学病院の新医療研究開発センター難波志穂子看護師、当院からは真鍋院長、その他2名が講演をしました。

講演は5つのテーマにわかれ肝臓・腎臓の健康管理の重要性についておこなわれました。来場者数は87名と多くの方に足を運んでいただきました。終了後には肝炎ウイルス検査を実施し、講演終了後にもかかわらず多数の方にご参加いただきました。ご参加いただいた皆様誠にありがとうございました。本年度最後の講座は「小児療育」をテーマに当院小児科部長の今村が講演いたします。次回もぜひご参加くださいませ。



講演中の高木特任教授



脳トレ体操をおこなう

次回 第6回

子どもの「困った」は
「困っている」のサイン?
～発達障害ってなんだろう～



小児療育センター長/小児科部長
今村 昌司



講演終了後肝炎ウイルス検査に多数参加いただけ

ブルーライトアップ



毎年11月14日は、国際連合が定める「世界糖尿病デー」です。この日は、インスリンを発見したフレデリック・バンティング博士の誕生日にあたり、糖尿病の脅威が世界的に拡大していることを受け、世界規模で糖尿病の予防、治療、療養を喚起する重要な日とされています。

この啓発活動のシンボルカラーは「ブルー」、そしてシンボルマークは「ブルーサークル」です。このブルーは、国連の旗の色と空を表し、Unite for diabetes (糖尿病との闘いのため団結せよ) というメッセージが込められています。当院では、世界糖尿病デーの活動の一環として、今年もシンボルカラーである青色によるライトアップを実施しました。

外来診察予定表

診療科	受付時間	月	火	水	木	金	土	
内科	糖尿病 腎臓 肝臓	午前	真鍋 内・肝・糖・腎	大森 内・糖・腎	荒木 内科・糖尿病	十川 内科・糖尿病	真鍋 内・肝・糖・腎	
			大森 内・糖・腎		蒲生 内科・腎臓病		荒木 内科・糖尿病	
			福島※ 腎臓	瀧 内科・腎臓	福島 腎臓		渡邊 内科	
			藤本※ 内科・消化器 ヘルスケア	西山 消化器	山本 内科・消化器		福島 腎臓	
	呼吸器 循環器		丸川 内科・呼吸器	近藤 循環器	丸川 内科・呼吸器		福島 腎臓	
● 内：内科 腎：腎臓 肝：肝臓 糖：糖尿病 ※ 福島正樹への新規ご紹介につきましては予約が必要です								
一般外来	午後	交代医師	交代医師	交代医師		交代医師	交代医師	
		荒木 糖尿病・ダイエット	真鍋/荒木 糖尿病・腎臓	藤本※ ヘルスケア		藤本※ ヘルスケア		
			丸川 内科・呼吸器					
※ ヘルスケア外来の診察時間は月11:00~12:00 水・金15:00~16:00 第4金曜日は休診です								
健診・検診		要予約	西山	西山	西山	藤本	西山	
内視鏡検査	上部消化管	午前 要予約	岡	山本	藤本	西山	岡山大学医師	
	下部消化管	午後 要予約	岡	山本	山本	藤本		

小児科		午前	虫明	虫明	河野	虫明	瀧	
			河野	今村	今村	河野	虫明	
		午後	交代医師	交代医師	交代医師	交代医師	交代医師	
小児療育		午前 要予約	今村/河野	今村/河野/川田	今村/川田	今村/河野	今村/川田	
		午後 要予約	今村	今村/川田	今村/河野/川田	今村	今村/川田	
● 初診の方は火・水の午前中のみです								
外科		午前	平松	平松	平松	平松	平松	
ダイアライシス アクセス 専門外来		午前・午後 要予約	櫻間/森廣	櫻間/森廣	森廣	櫻間/森廣		
● 初診の方は月・水・金のみです ● 時間外でも可能な限り対応いたしますので電話でお問い合わせください								
泌尿器科 脳神経内科		午後 要予約				岡山大学医師 泌尿器科 13:30~16:00	森 脳神経内科	
皮膚科 眼科			交代医師 眼科 第4月曜日13:30~16:00	太田 皮膚科	太田 皮膚科			

受付時間

午前 8:30~11:30

午後 13:30~16:30

再診の方は、再来受付機にて8:00より受け付けています

休診日 木曜・日曜・祝日

急病の場合は、あらかじめお問い合わせください

交通のご案内

岡電バス 「重井附属病院」行き終点下車

■ 天満屋バスセンターから ▶ 約40分

■ 岡山駅東口バスターミナルから ▶ 約30分

タクシー ■ JR庭瀬駅から ▶ 約10分

■ JR妹尾駅から ▶ 約10分

駐車場 140台 当院ご利用の方は、無料



社会医療法人 創和会

重井医学研究所附属病院

〒701-0202 岡山県岡山市南区山田 2117

代表

TEL 086-282-5311

FAX 086-282-5345

入退院支援センター(直通)

TEL 086-282-5360

FAX 086-282-4447

